

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み																											
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		自己評価				項目 毎 評価	中項目 (平均)	大項目 (平均)	自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策																				
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/ 3人 (66%)					4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない																			
学研	重点目標Ⅰ	進路探求への取組	アンケート1 「産社や探究の時間を通して進路探究に取り組む態度を育てている。」		<table border="1"> <caption>進路探求への取組</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>66</td> <td>32</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>33</td> <td>46</td> <td>18</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>74</td> <td>26</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	66	32	2	0	保護者	33	46	18	3	教員	74	26	0	0	4			1、2年次では、職業適性検査を実施しており、その結果を参考にしながら行う職業講話や進路ガイダンスを実施している。実際に授業を受けた100%に近い生徒に将来の職業に対する意識の高まりが見受けられた。それに対し、保護者は約80%に止まる結果となっている。HP等を活用し、授業の内容を発信することで学校の取り組みに対する理解を深めていきたい。 産社や探究の時間を通して、多くの進路実現へ向けての学習を行っている。進路ガイダンス等は、生徒の進路希望を基にグループ分けをして実施している。アンケート結果から、進路に関して決定しており、目標がある生徒にとっては有意義な時間になるが、決定していない生徒が積極的に取り組めないのではないかと考える。1年次の6月には、進路につながる科目選択が行われることから、進路については、視野を広げた上で保護者とよく話し合い、早急に目標を持たせる指導が大切であると考えている。
			対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
生徒	66	32	2	0																												
保護者	33	46	18	3																												
教員	74	26	0	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 職業適性検査(1年次)(4月) ・上級学校見学(1年次)(5月) 職業についてのパズルワーク(1年次)(6月)(外部講師) フューチャーライブ(演劇型講演会)(1年次)(7月)(外部講師) 進路ガイダンス(2年次)(5月)(3年次)(7月) 職業インタビュー(1年次)(11月) ・ライブプランの作成と発表(1年次)(1月) 体験型進路ガイダンス(1年次,2年次)(2月) 																															
進路	重点目標Ⅰ	進路講演会・企業学校見学会の実施	アンケート2 「進路講演会や学校、企業見学会は役立つ」		<table border="1"> <caption>進路講演会・企業学校見学会の実施</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>56</td> <td>40</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>43</td> <td>52</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	56	40	4	0	保護者	43	52	6	0	教員	50	50	0	0	4	4.0	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導主事講話は、進路決定までの流れや心構えをに加え、進路情報誌を用いて、先輩たちの取り組みやアドバイスを織り交ぜながら実施した。 インターンシップは、生徒の希望に応じて事業所を選定し、予定通り実施した。実施後の生徒の満足度及び事業所からの評価も高いことから、今後も実施して行く予定である。 職場見学会は受入れ企業も決まり、今後実施する。年次との連携を密にし、生徒の進路選択に資する内容にして行きたい。
			対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
生徒	56	40	4	0																												
保護者	43	52	6	0																												
教員	50	50	0	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導主事講話(各年次対象) インターンシップ(2年次対象12月実施) 職場見学会(1年次対象2月実施) 																															
学研	総合学科教育の推進	進路意欲の高揚	アンケート3 「地域理解や職業に就いての学習などが進路意欲の向上につながっている」		<table border="1"> <caption>進路意欲の高揚</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>47</td> <td>46</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>40</td> <td>53</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>42</td> <td>58</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	47	46	5	2	保護者	40	53	6	1	教員	42	58	0	0	4			1・2年次を中心に、多くの講演会等を通して、教員は100%、生徒・保護者は90%を超えて、進路への意識を高めることが出来たと感じている。また、職業インタビューの授業の一環として、マナー講習会などを実施し、聞く力や話す力等に加え、アポイントの取り方や名刺交換の仕方、礼状の書き方等、社会人として必要な素養の向上もみられた。 職業調べ、職業インタビューについては、12月の発表会まで、非常に多くの時間と労力を要するが、生徒にとっては学びの多い学習となっており、事業所からも肯定的な意見をいただいている。訪問する事業所については、全て本人、保護者の希望を基に選定しているが、希望職種とは異なった事業所を選定する生徒や訪問する先が不安だったとの保護者があり、実施の内容や意図への理解が不十分であったと考える。次年度は、進路につながる重要な授業の一環として、学習研究係から生徒全体に話をし、三者面談で訪問先を確認する等、生徒・保護者がさらに理解を深めることができる手立てを講じていきたい。
			対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
生徒	47	46	5	2																												
保護者	40	53	6	1																												
教員	42	58	0	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 三者面談(3年次)(3～4月)(1,2年次)(7～8月) 飯坂サポーターズクラブによる校外学習のアドバイス(3年次)(6月) 飯坂町校外学習(飯坂巡検)の実施(1年次)(9月) 職業インタビュー(1年次)(11月) 																															
学研	重点目標Ⅱ	科目選択指導	アンケート4「科目選択ガイダンスや相談週間で進路に合った科目選択ができるよう指導した」		<table border="1"> <caption>科目選択指導</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>47</td> <td>46</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>35</td> <td>57</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>55</td> <td>39</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	47	46	6	1	保護者	35	57	7	0	教員	55	39	5	0	4	4.0	4.0	1年次生向けに系列説明会、科目選択ガイダンスなどを丁寧に実施した。また科目選択のシミュレーションや相談月間を設け、生徒の進路に応じた科目選択ができるよう支援した。他校との協議会では、先輩の体験談を聞き、科目選択の参考にさせている学校は本校独自の取り組みであることがわかり、ミスマッチを防ぐのに役立っていることが分かったため継続したい。しかし、アンケートの結果から、9割強の生徒・保護者はガイダンスが役に立っているとしているが、思わないという生徒や保護者もいるため、原因を探り、より丁寧に説明していく必要があると感じている。 現在、学級減にともない教員数も減る方向となり、開設できる講座も減少していくことも懸念される。総合学科の特徴でもある、多くの選択科目から進路実現に向けた自分だけの時間割を作るということが厳しくなるかもしれないことも考え、生徒に最善の選択ができるよう工夫が必要である。
			対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
生徒	47	46	6	1																												
保護者	35	57	7	0																												
教員	55	39	5	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 2年次については「総合的な探究の時間Ⅰ」で2時間、科目についてのガイダンスを実施。 1年次については「産業社会と人間」の授業で5時間、系列、科目についてのガイダンスおよび先輩の体験発表などを実施。また、保護者向けガイダンスを1回実施。 科目選択相談月間を設け、各教科の担当者に生徒が自由に相談や質問できるようにした。 																															

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み						自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策	
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/ 3人 (66%)	自己評価			
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)					項目 毎 評価	中項 目 (平均)		大項 目 (平均)
生指	重点目標Ⅱ 規律ある生活態度の育成	1 基本的 生活習慣の 確立	服装・頭髪検査の 徹底	アンケート5 「服装、頭 髪遅刻指導 している」					3	3.3	<p>服装頭髪指導については、統一した指導基準で全教員の割り当てのもと実施した。アンケート結果から特に保護者の「そう思う」が65%、「ややそう思う」と合わせると97%の評価を得られている。教員間の共通理解のもと検査時だけでなく、日常生活においても継続して指導を徹底する必要がある。</p>	
			具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・始業式・全校集会時に服装頭髪指導を実施 ・県下一斉服装指導(6月、10月)に合わせ、服装頭髪指導の実施 ・登校指導の実施 ・遅刻カードの活用 							
		高校生として必要 な社会性	アンケート6 「あいさつ や言葉づか いを指導し ている」					4	3.3	<p>挨拶や言葉遣いなどは、集会時や登校指導などによる指導はもとより、日常の教師側の働きかけ・対応が重要であることから、毎日の授業や学校生活・部活動などあらゆる場面を通して生徒へのより積極的なかわり・指導をお願いしていきたい。</p>		
		具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会時の全体指導 ・登校指導における生徒への声かけの実践 								
	交通ルールの遵 守	アンケート7 「交通安全 指導の実 施」					3	3.4	<p>アンケート結果では生徒の交通安全に対する意識は高い。しかしながら、自損の転倒事故や軽度の接触事故が多く起きているが、中には重大事故につながりかねない事例もある。道路交通法の一部改正により令和5年4月1日から全ての自転車利用者に対し、ヘルメットの着用が努力義務となったこともあり、ヘルメット着用の啓発、そして、なによりも生徒自身の安全意識が最も重要なので、さらに意識を高めるような啓発を考えていきたい。</p> <p>PTA健全育成委員の協力をいただき、自転車安全運転走行一斉指導を実施することができた。</p> <p>駐輪指導では無施錠や無届け自転車での通学があり、盗難被害や事故等が懸念される。</p>			
	具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会時の全体指導 ・1年次生に交通講話を実施 ・年間3回自転車安全運転走行一斉指導の実施 ・クラス掲示による啓発 ・駐輪指導の実施 ・自動車学校入校説明会の実施(3年次生徒・保護者対象) 									
2 規律厳 守とマナ ー	情報機器の適切 な使用	アンケート8 「情報機器 の適切な使 用について 指導してい る」					3	3.0	<p>アンケート結果では生徒の適切な使用に対する意識は高い。しかしながら、スクールタイム中のスマートフォンの使用、歩きスマホやイヤホンで音楽を聴きながらの自転車走行や歩行、SNSの不適切な使用等が見受けられる。法律や条例、マナーを教える指導が必要である。</p>			
具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション時の情報モラル講話の実施 ・年度始めに情報機器の取り扱いについてルールの周知 ・集会時に情報機器の取り扱い及びSNS等の使用についての指導 										

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み						自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策																					
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/3人 (66%)	自己評価																							
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)					項目 毎評価	中項目 (平均)		大項目 (平均)																				
教相	規律ある生活態度の育成	3 教育相談の充実	教育相談の充実	アンケート9 「教育相談等悩みを相談できる」	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>36</td><td>36</td><td>21</td><td>7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>28</td><td>51</td><td>17</td><td>4</td></tr> <tr><td>教員</td><td>63</td><td>37</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>				Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	36	36	21	7	保護者	28	51	17	4	教員	63	37	0	0	4	4.0	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる教育相談については、生徒や保護者に対し、案内文や教育相談だより等を掲示、配布できたが、生徒の「そう思う」が36%、保護者は28%と3割程度の結果であった。学校における教育相談の利用について、周知方法を工夫しながらさらに体制を整え、充実を図りたい。
			Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
生徒	36	36	21	7																												
保護者	28	51	17	4																												
教員	63	37	0	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・木曜日の午後にSCによる教育相談を実施 ・必要に応じてSSWとの面談を実施 ・教育相談利用を呼び掛ける掲示物や、教育相談だよりを発行 ・教員対象に気になる生徒の調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の後は、スクールカウンセラーと関係職員で振り返りの時間をもち、生徒の情報共有を行うことで共通理解を図り、ケース会やスタッフ会、必要に応じてスクールソーシャルワーカーへつなげながら、個々の状況に即ちに対応することができた。気になる生徒の調査も含め、今後も生徒の状況を把握し、個々の相談に対応できるように努めていきたい。 																														
教務	基礎学力の向上と進路実現	1 学習習慣と基礎学力の向上	授業態度の育成	アンケート10 「授業は真剣に取り組んでいる(教員は指導している)」	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>55</td><td>41</td><td>4</td><td>0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>20</td><td>62</td><td>17</td><td>1</td></tr> <tr><td>教員</td><td>61</td><td>39</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>				Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	55	41	4	0	保護者	20	62	17	1	教員	61	39	0	0	4	3	3.3	<p>授業態度の育成については、授業に真剣に取り組む生徒の割合が昨年度(そう思う26%, ややそう思う61%)と比較して、肯定的な意見が96%となり、大きく改善している。授業に対する生徒の意欲が伺える結果となった。授業のわかりやすさについても、昨年度(そう思う26%, ややそう思う61%)と比較して、改善の傾向が見られる。また、教員と生徒の間に大きな差が見られないことから、教員の授業改善の効果が表れているものと思われる。ただし、1割弱の生徒は、授業をわかりやすいとは感じておらず、今後も授業改善を継続していく必要がある。</p> <p>今年度は、「わかった・できたを大切にする授業」をテーマとし、授業改善に関する校内研修を実施した。教員が見てみたいと思う授業を見学することができ、自分の授業スタイルを振り返る機会ともなっている。</p> <p>また、今年度も2回のICT活用教員研修会を実施した。会を追うごとに参加者数が増加傾向にあり、より授業をイメージしやすい研修を継続していきたい。一方的に教員が授業を進めるのではなく、個に応じた指導を意識した授業の改善が必要である。視覚的なアプローチやアクティブラーニングを取り入れることで、「わかる授業」を展開しながら、生徒の授業に対する前向きな姿勢を育てたい。</p>
			Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
			生徒	55	41	4	0																									
			保護者	20	62	17	1																									
教員	61	39	0	0																												
授業改善	アンケート11 「授業はわかりやすい(教員は授業改善に努めている)」	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>35</td><td>56</td><td>8</td><td>1</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>35</td><td>55</td><td>10</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>42</td><td>42</td><td>13</td><td>3</td></tr> </table>				Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	35	56	8	1	保護者	35	55	10	0	教員	42	42	13	3							
Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																												
生徒	35	56	8	1																												
保護者	35	55	10	0																												
教員	42	42	13	3																												
学習習慣	アンケート12 「朝自習や家庭学習(課題含む)に真剣に取り組んでいる。(教員は指導している)」	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>ややそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>そう思わない</th></tr> <tr><td>生徒</td><td>34</td><td>45</td><td>17</td><td>4</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>35</td><td>55</td><td>10</td><td>0</td></tr> <tr><td>教員</td><td>26</td><td>58</td><td>16</td><td>0</td></tr> </table>				Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	34	45	17	4	保護者	35	55	10	0	教員	26	58	16	0							
Category	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																												
生徒	34	45	17	4																												
保護者	35	55	10	0																												
教員	26	58	16	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習(毎日) 	<p>「授業への取組についての指導」や「教員の授業改善」の意識と比較すると、朝自習や家庭学習への指導は生徒・教員共に否定的な回答が多い傾向がある。長期休業や考査前に課題を出す教科はあるが、日常的には放課後や休日を他の活動(部活動やボランティア等)にあてられるよう、学習を授業内で完結させる傾向が強いためであると考えられる。しかしながら、8割以上は肯定的な回答となっており、生徒・保護者・教員間で大きな差がないことから、概ね目標は達成していると言える。</p> <p>本来家庭で実施してくる課題を提出できない生徒に対して、現在は各教科で放課後に時間を設け指導し、課題を完成させるよう取り組んでいるが、家庭での学習習慣に関しては保護者の協力も不可欠と思われる。</p> <p>朝自習については、各年次で工夫して対応しており、今後も継続して学習習慣の確立に向けて努力を続けたい。</p>																														

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み							自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/ 3人 (66%)	自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)					項目 毎 評価	中項 目 (平均)	大項 目 (平均)	
図書	1 学習習慣と基礎学力 の向上	学習習慣	アンケート13 「図書館の活用を進めている。」						3	3.3	3.3	<p>授業において図書館を利用し、課題として図書の貸し出しを指示することによって貸し出し数は伸びるが、過去の貸し出し数と比較すると数字的には減少している。生徒の読書習慣を高めるため、各教科の授業で図書館を利用するなど、共通理解を持って指導を継続していく工夫が必要と考える。生徒の選書研修等を通して生徒にとって魅力ある書籍を図書館に揃える努力を行うことができた。</p>
		具体的な取り組み		<p>図書委員による選書研修によって、生徒に魅力ある内容の書籍を図書館に揃える試みを行い、蔵書内容が充実した。また特別企画コーナーを設置し、テーマに特化した書籍の展示を行うなどの試みを定期的実施している。司書による新着図書案内も各クラスに掲示し、生徒の興味を引くための試みを継続している。</p>								
進路	基礎学力の向上と進路実現 重点目標Ⅲ 2 生徒の進路実現	課外による実力養成	アンケート14「課外・小論文、三者面談等は、進路実現に役立っている」						4	4.0	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中を中心に、各教科の協力を得て、学力の向上に向けて実施することができた。生徒は、結果に即座に反映する勉強に目が向きがちであるが、基礎学力があつてこそその対策となるので、進路に応じた対策も重要であるが、毎日の学習の積み重ねが重要であることの意識を育てたい。 ・公務員希望者については個別に受験対策などを行った。また、外部講師を活用した公務員希望者対象の課外を、4回実施した。
		具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・平常課外 ・長期休業中の課外 ・公務員課外(外部講師) 								
		資格取得・検定の奨励	アンケート15「資格取得・検定試験等に取り組む」						4			<ul style="list-style-type: none"> ・資格・検定へ向けて、課外授業を実施するなど、各教科を中心によく取り組んで頂いた。資格取得は進学・就職に優位なものとなるので、引き続き指導をお願いしたい。
具体的な取り組み												

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み							自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策																				
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検						自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない																							
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/ 3人 (66%)	項目 毎 評価	中項 目 (平均)	大項 目 (平均)																					
生徒会	重点目標Ⅳ 健康な心身の育成	1 生徒会活動の活性化	部活動加入率の向上	アンケート 16「部活動の活性化に努めている」	<table border="1" style="margin: auto; font-size: small;"> <caption>部活動加入率の向上に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>63</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>26</td> <td>65</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>34</td> <td>39</td> <td>18</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	63	14	4	19	保護者	26	65	9	0	教員	34	39	18	8	3	3.5	3.5	生徒の回答で一番割合が多いのは6割以上の部活動に参加しているだが、次に多いのは約2割の部活動に参加していないとの回答だ。コロナ禍の影響で、小中学校時代に部活動の習慣がない生徒が本校入学後、部活動に入部しなかったり、入部しても毎日の活動についていけなかったり2割の参加していない生徒の大きな原因だと考えられる。コロナ禍が落ち着いてきて、現1年次の部活動加入率が回復傾向にある。次年度4月の新入部員獲得に向け、各部の生徒と顧問の先生方と協力して4月の生徒会行事を盛り上げていきたい。
			対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																									
			生徒	63	14	4	19																									
保護者	26	65	9	0																												
教員	34	39	18	8																												
具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・新入生への部活動紹介冊子配布 ・部活動見学期間の設定 ・新入生部活動紹介の企画 ・選手壮行会の開催 ・応援団の結成と応援 ・各部の活躍の場の企画提案 																														
生徒会行事の成功	アンケート 17「生徒会活動が活発だ」	<table border="1" style="margin: auto; font-size: small;"> <caption>生徒会行事の成功に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>70</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>30</td> <td>42</td> <td>24</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>66</td> <td>32</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	生徒	70	24	4	2	保護者	30	42	24	4	教員	66	32	3	0	4	4	4	今年度はコロナ禍が落ち着き、全ての生徒会行事を中止、簡略化せず実施することができた。特に校歌指導、応援団の結成とエールは久しぶりで、見たことも聞いたこともない行事を、生徒会で模索しながら取り組んだが、その試行錯誤の様子やがんばりを見て、一緒にやろうと声を上げてくれる部活動や個人がどんどん出てきたことが、体育祭をはじめ、全ての行事の盛り上がりにつながったと感じた。次年度も、各部活動、委員会の皆さんの協力をいただきながら、より多くの福島北高生が楽しめる内容を考えていきたい。			
対象	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない																												
生徒	70	24	4	2																												
保護者	30	42	24	4																												
教員	66	32	3	0																												
具体的な取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・対面式、部活動紹介、生徒総会、応援団結成、野球応援、選手壮行会(2回)、体験入学、球技大会(夏・春)、体育祭の企画、運営。 ・各委員会で活動内容等を話し合う場の設置(編成・前期・後期) ・生徒会誌「北斗」による、生徒会活動や学校生活の周知。 ・球技大会、体育祭等における各委員会への仕事割り振りと運営。 ・各生徒会行事において、各部活動の活躍の場の企画提案。(校歌指導、対面式、部紹介、体育祭の開会式・表彰式、体育祭の看板、球技大会や体育祭のパンフ表紙等) 																														

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み						自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策	
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検						自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/3人 (66%)	項目 毎評価	中項目 (平均)		大項目 (平均)
学研	重点目標Ⅳ	2 ボランティア活動の推進	アンケート18「体験型授業やボランティアが活発である」						3	3.0	<p>具体的な取り組みにもあるように、保育系科目で実施した体験型授業やJRC部を中心に多くのボランティア活動を行った。</p> <p>今年度よりJRC部顧問がボランティアの連絡調整に入ったことにより、系列に限らず幅広くボランティアの情報を広げることができるようになったため、アンケートでは、ほぼ100%の教員が肯定的な回答であった。</p> <p>肯定的な意見が生徒52%、保護者74%、教員97%とばらつきがある原因は、生徒にはアンケートで参加したかどうかを聞いているため、一部の参加していない生徒の回答やボランティア活動を実施していること自体を知らない生徒・保護者がいることが予想される。次年度は、実施した活動については、担当教員に写真等で記録を残すよう依頼し、HP等を活用するなどして改善していきたい。</p>	
			具体的な取り組み	<p>子ども文化選択3年次・いいざか幼稚園夏祭りボランティア参加。</p> <p>保育基礎選択2年次・いいざか幼稚園運動会ボランティア参加。</p> <p>生徒会・薬物乱用防止に関する街頭啓発活動。</p> <p>JRC部・福島駅前の清掃。・福島駅でのマナーアップキャンペーン参加。</p> <p>・能登半島地震他、募金活動。</p> <p>・トレーニングセンター(防災講習及び実習、救急法講座他)へ参加。</p> <p>茶道部・香積寺の呈茶席ボランティアに参加。</p> <p>ノースエンジェルス(福島北警察署より依頼)・「まもりんご」作成、防犯意識の啓発活動。</p> <p>その他有志・「サマーショートボランティア」に多くの生徒が参加。等</p>								
施設厚生	重点目標Ⅳ	健康な心身の育成	校内美化	<p>アンケート19「清掃では、役割分担を明確にし、責任を持って取り組むよう指導している」</p> <p>・通常清掃(毎日)</p> <p>・大掃除(長期休業前後)</p> <p>・教室整備(年度末)</p>					3	3.3	<p>・アンケートの結果から、自分の役割に責任を持って清掃を行っている生徒が96%、役割分担を明確にして指導している先生が95%と高いことがわかった。しかし、本校が校内美化を推進していると回答した保護者は74%と低く、自由記述の中にも「学校に訪問する時が年に1、2回あるが毎回汚い」や「トイレ美化に努めてほしい」との声があった。来校者の方のご意見を真摯に受け止め、次年度は校舎が古くても清掃が行き届いていると感じていただけるような活動を行いたい。正面玄関や昇降口をはじめとする中校舎の清掃を重点区域に加えたい。また、今年度設置した業務用掃除機(6箇所)を通常清掃で活用できるように計画すること、トイレの清掃用具を充実させることが課題である。</p> <p>・環境委員会で月1回教室のモップ洗濯を行った。ワックス清掃や教室整備においてもまじめに取り組み、協力して取り組む生徒が多いと感じているので、範囲を広げて引き続き活動を継続したい。</p> <p>・窓清掃については検討課題としたい。</p>	
			具体的な取り組み	<p>・年度初めに清掃目標は『一人一役清掃…自分の仕事は責任を持って北高をきれいにしよう!』と、重点区域は『トイレ、廊下・階段、特別教室』とすることについて職員間の共通理解を図る。</p> <p>・校舎内6箇所に業務用掃除機を設置。また、コードレス掃除機を階段掃除で使用できるよう5箇所に配当。</p> <p>・環境委員会で月に1回、クラスのモップ洗濯を実施。</p>								
			保健教育	<p>アンケート20「保健教育の推進に努めている」</p> <p>性教育講演会(3回)</p>								4
具体的な取り組み	<p>・性教育講演会1～3年(LHR)</p> <p>・養護教諭と体育科教員のTTによる性教育講座(保健)</p> <p>・保健だよりの発行</p> <p>・保健室前のポスター貼付</p> <p>・眼科および歯科個別指導の実施</p> <p>・保健委員会…石けん液補充、手指消毒液補充等</p>											

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み						自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策																					
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検						自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない																							
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/3人 (66%)	項目 毎 評価	中項 目 (平均)		大項 目 (平均)																				
総務		保護者との連携	アンケート 21「学校と保護者との連携が図られている」	PTA役員会・理事会が定期的に行われている	<table border="1"> <caption>アンケート結果：学校と保護者との連携が図られている</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>■ そう思う</th> <th>■ ややそう思う</th> <th>■ あまりそう思わない</th> <th>■ そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>55</td> <td>30</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>24</td> <td>56</td> <td>16</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>32</td> <td>63</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>				対象	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまりそう思わない	■ そう思わない	生徒	55	30	11	4	保護者	24	56	16	3	教員	32	63	0	5	3			令和5年は、PTA総会やアイス販売や町内パトロールや竹藪伐採の行事を実施して、昨年よりはPTA活動が増えている。しかし各種行事やPTA役員会やPTA理事会の出席者が少なく、来年度以降PTA活動の内容を理解してもらい、出席者を増やすことが課題である。 なお調査広報部では、PTA新聞「北斗」第99号を発行することができ、健全育成部では年に3回の自転車安全走行指導が実施され、進路対策部では進学・就職小委員会研修会が中止になった。
			対象	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまりそう思わない	■ そう思わない																									
生徒	55	30	11	4																												
保護者	24	56	16	3																												
教員	32	63	0	5																												
具体的な取り組み	PTA各種活動日及び集計締切日より1か月前に、生徒を通じてPTA役員やクラス理事に通知を配布する。																															
教務	家庭・地域との連携	家庭・地域との連絡	アンケート 22「学校メールやホームページなどで家庭への情報発信に努めている」		<table border="1"> <caption>アンケート結果：学校メールやホームページなどで家庭への情報発信に努めている</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>■ そう思う</th> <th>■ ややそう思う</th> <th>■ あまりそう思わない</th> <th>■ そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>29</td> <td>34</td> <td>22</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>21</td> <td>62</td> <td>15</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>68</td> <td>32</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまりそう思わない	■ そう思わない	生徒	29	34	22	15	保護者	21	62	15	1	教員	68	32	0	0	3	3.0	3.0	一昨年度からホームページの更新を大幅に増加させ、閲覧数も伸びてきている。(昨年度年間57,000件→今年度1月末で62,000件)今年度も授業風景や行事等、学校生活の様子ができるように努めた。また、保護者への一斉メールにホームページのリンクを貼り付けアクセスしやすいように工夫している。 教員は、家庭への情報発信について全員が肯定的な回答をしており、家庭への連絡に努めていることが伺える。一方で、保護者は昨年度(そう思う39%, ややそう思う49%)よりも肯定的な意見が減少しており、これまでも努力しているところではあるが、今後も情報発信について工夫していきたい。
			対象	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまりそう思わない	■ そう思わない																									
生徒	29	34	22	15																												
保護者	21	62	15	1																												
教員	68	32	0	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・39メールを活用した保護者・生徒への連絡 ・ホームページの更新 																															
学研		地域との連携	アンケート 23「地域との連携が図られている」		<table border="1"> <caption>アンケート結果：地域との連携が図られている</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>■ そう思う</th> <th>■ ややそう思う</th> <th>■ あまりそう思わない</th> <th>■ そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>28</td> <td>50</td> <td>18</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>19</td> <td>60</td> <td>20</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>47</td> <td>53</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまりそう思わない	■ そう思わない	生徒	28	50	18	4	保護者	19	60	20	1	教員	47	53	0	0	3			アンケートの結果、肯定的な意見が生徒・保護者(80%弱)、教員(100%)と乖離があった。これは、生徒・保護者に地域連携が何を指しているか伝わっていないのではないかと推測されるため、次年度以降アンケートの文言についてわかりやすいよう改善していきたい。 1年次の飯坂巡検では、事前学習を行ったうえで、実際に飯坂町を散策することで地元の魅力を再確認することができた。今年度より「食」の観点を新たに設けたことで、これまで以上に生徒にとって飯坂町が身近な存在になっていると思われる。 3年次の総合的な探究の時間Ⅱでは、自分の進路希望の観点から地域課題を捉えて課題研究に取り組む生徒が多く、例年以上に地域に出て学習している生徒が多く見られた。福島市や飯坂地区の事業所に御協力をいただき、取り組んだ課題研究では、1月に行われた県の総合学科研究発表会において、参加した3名とも口頭発表部門で最優秀賞、展示発表部門で最優秀賞と優秀賞(2位)という結果を収めることができ、改めて地域と連携する大切さを実感する結果となった。 今後も地元の魅力や課題について調べたり、話を聞いたりする学習活動を地元と連携していくために、窓口があるとよいと考える。
			対象	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまりそう思わない	■ そう思わない																									
生徒	28	50	18	4																												
保護者	19	60	20	1																												
教員	47	53	0	0																												
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解校外学習(1年次)(4月) ・飯坂サポーターズクラブによる校外学習のアドバイス(3年次)(6月) ・総合的な探究の時間Ⅱ(3年次)(随時) ・飯坂町校外学習(飯坂巡検)の実施(1年次)(9月) 																															

令和5年度 学校評価（期末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・具体的な取り組み							自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策															
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		アンケート資料				自己評価																		
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 316人/342人 (93%)	保護者 233人/342人 (69%)	教職員 38人/38人 (100%)	学校評議員 2人/ 3人 (66%)	項目 毎 評価	中項 目 (平均)	大項 目 (平均)																
教頭	満足度	学校生活への満足度	意義ある学校生活	アンケート 24「生徒は満足した学校生活を送っている」	<p style="font-size: small; text-align: center;">■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない</p> <table border="1" style="margin: auto; font-size: x-small;"> <tr> <td>生徒</td> <td>46</td> <td>41</td> <td>11</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>27</td> <td>56</td> <td>13</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>24</td> <td>74</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>				生徒	46	41	11	2	保護者	27	56	13	4	教員	24	74	3	3	3	3.0	3.0	<p>・教職員の期末評価の結果では、令和4年度よりそう思う、ややそう思うという肯定的な評価が(+5%)の98%という結果になった。生徒の学校評価では令和4年度の85%の生徒より(+3%)の87%の生徒が学校生活に満足しているとの結果になった。また、保護者の評価では、令和4年度と比較して(+2%)の85%という結果だった。昨年度から保護者の御協力のおかげで、冷房費を値上げさせていただき、夏場の冷房の使用時間を早まることを実施することができた。また、夏季休業中においても課外時や進路活動する際に使用できるようにした。気温によって冬場の暖房機器をボイラーとブルーヒーターの併用を行い学習環境の改善を図ることができた。通学路の街灯に関しては、設置者が福島市になるのでPTAの方々や連携を図りながら福島市に要望していきたい。今後も生徒、保護者の意見を参考に改善していきたい。</p> <p>・今年度より1クラス数減に伴い、教員数も減となった。そのため教職員の組織改編を行ったが、今後も更なる教職員の組織改編が必要となる。教職員の多忙化解消を図ることにより、教職員の心身の余裕が生まれ、生徒と関わる時間の確保に繋がると考える。次年度も、新体制で全教職員が共通理解の下、生徒一人一人の学校生活を満足したものになるように努力していきたい。</p> <p>・生徒の実態を把握した学習指導や教科横断的な学習指導、効果的なICTの活用するための校内での研修会の実施や外部での研修を奨励してきた。また、今年度の互見授業では自分の授業に活かすことを意識して実施した。今後も教職員の授業改善や資質向上のため、互見授業の実施や研修の奨励を行っていききたい。今年度は、県の総合学科研究発表会で口頭発表部門、展示発表部門で最優秀賞、優秀賞を受賞することができた。総合学科で三年間学んだことの集大成でこのような結果となった。今後も生徒一人一人の個別最適な学びが担保できるように、教職員一丸となって取り組んでいきたい。</p>
			生徒	46	41	11	2																				
保護者	27	56	13	4																							
教員	24	74	3	3																							
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度は、本校の教育活動全体を総括して、各項目をPDCAサイクルで検証している。 ・具体的な取り組みは、各年次や校務分掌、教職員それぞれが担っている。中間評価後、教職員一人一人がそれぞれの反省を踏まえ、家庭、地域と連携を図りながら、生徒の高校生活が充実したものになるように努力してきた。 ・生徒の学校への満足度の向上のため、今年度は学校組織の改編を行った。次年度は新体制で生徒と関わる時間の確保をしていく。 																										